

# センタービーム柵(端末タイプ)施工の手順-1/3

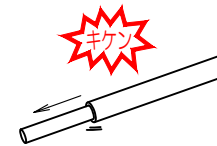
※作業前に所定の材料部材がそろっているか確認してください。

## 警告

設計強度は、水平荷重390N(40kg)/m、垂直荷重590N(60kg)/mです。  
一度に多くの人が寄りかかったり乗ったりしますと曲がったり倒れたりする恐れがあります。

## 注意

- 横木を傾けると中の鋼管が抜け落ちる場合があります。持ち運ぶ際には傾けないで下さい。
- 平地用横木には横木回転防止用の切欠きがあります。必ず切欠きを上にして下さい。
- 支柱に付いている釘は、横木回転防止用です。必ずスタート側に向けて施工してください。  
釘は下側と横側場合があります。釘の保護キャップははずして下さい。
- 擬木は加工時(屋内)と施工時(屋外)温度変化によって伸縮します。  
冬季の早朝は5~10mm短くなる場合がありますし、春から秋に直射日光に当たりますと5~15mm伸びる場合があります。  
施工直前まで覆いを掛ける等直射日光に当たらないようにして下さい。

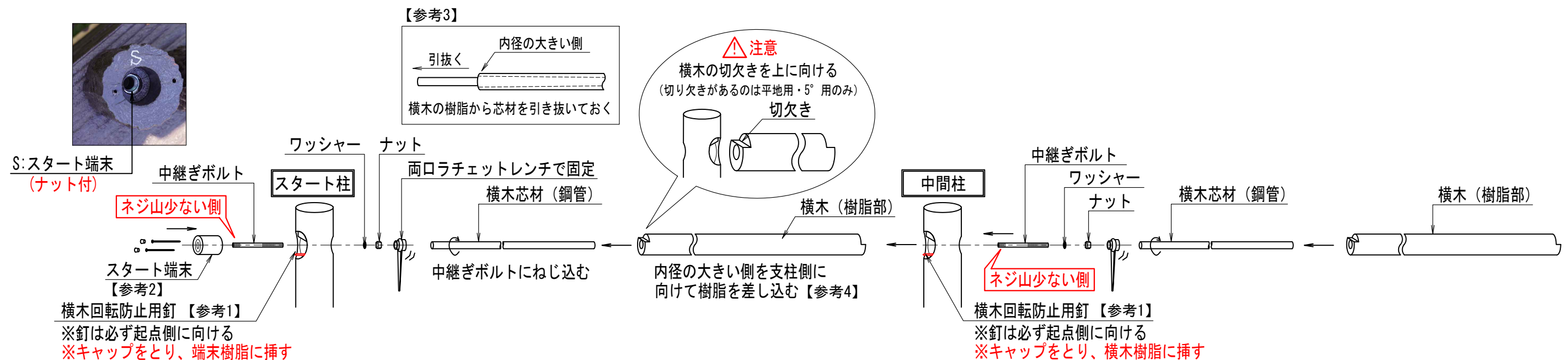


## 準備工具類

- 24mm 両口ラチェットレンチ **注意**
- ハンマー・カケヤ
- 19mmソケットレンチ
- 17mmスパナ
- インパクトドリル プラスビット#2
- 電動マルノコ・手ノコ
- ノミ・ディスクグラインダ

## ■平地部の施工方法 1 (スタート柱~中間柱)

- 施工方向と部材の向きを確認し、釘の向きが端末側になるようスタート地点に支柱を据え付け【参考1】、下図のようにスタート端末に中継ぎボルトをねじ込む。  
中継ぎボルトを柱に通し【参考2】、ワッシャー・ナットを取り付け、両口ラチェットレンチで締め付ける。  
横木の内径の大きい側より樹脂から芯材(鋼管)を抜き出し、柱に固定した中継ぎボルトに芯材先端のリングナット部をねじ込む。【参考3・4】  
横木樹脂の切り欠き部を上にして鋼管に差し込み、支柱の勘合部に合わせる。【参考5】
- 釘の向きがスタート柱側になるよう中間柱を設置し、①で据え付けた横木を中継ぎボルトで固定する。①同様にワッシャー・ナットと横木を取り付け、この工程を繰り返す。



【参考1】横木回転防止用釘 キャップを取る



【参考2】スタート端末取付 端末にボルトをねじ込んでおく



【参考3】芯材抜き取り 内径の大きい側より抜き取る



【参考4】芯材(鋼管)を支柱の 中継ぎボルトにねじ込む

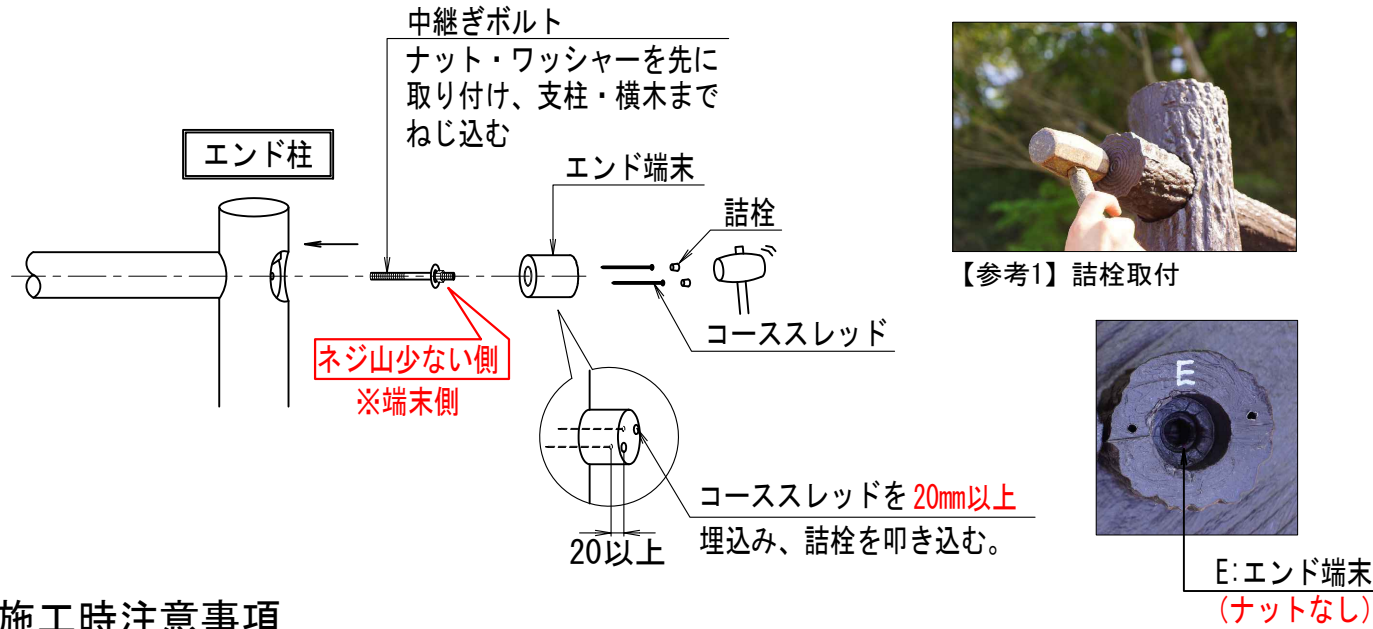


【参考5】芯材(鋼管)に横木樹脂を差し込む 横木樹脂を差し込む

# センタービーム柵(端末タイプ)施工の手順-2/3

## ■平地部の施工方法2 (中間柱~エンド柱)

- ① 中間支柱を据え付け、最後にエンド地点に支柱を据え付ける。  
中継ぎボルトのネジ山の少ない方を端末側に向け、ナット・ワッシャーを取り付けてエンド支柱と横木を締め付ける。
- ② エンド端末を取り付け、コーススレッドで固定後、詰め栓を叩き込む。【参考1】



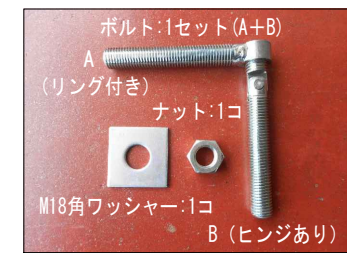
＜中継ぎボルトセット＞  
端末・中間柱・一定勾配傾斜部用



＜端末セット＞  
スタート端末(S)・エンド端末(E)



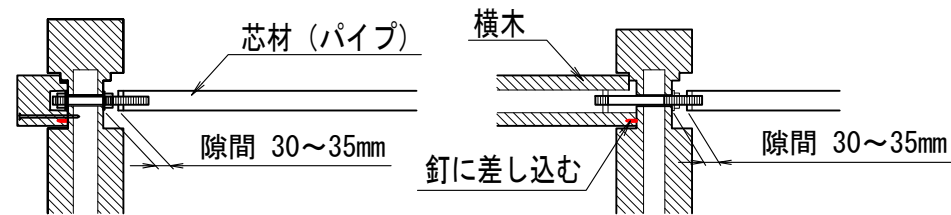
＜自在ボルトセット＞  
110°以上のコーナー部・勾配変化点用



＜90°自在ボルトセット＞  
90~109°のコーナー部用

## ■施工時注意事項

- ① パイプを締め付け時及び横木樹脂取付時



※支柱壁と鋼管先端の間に隙間を設ける。  
※パイプを中に入れ過ぎると次の中継ぎボルトが届かなくなり、横木が取り付けられません。

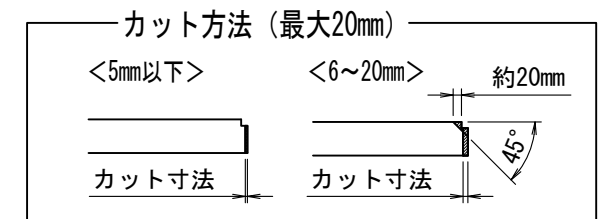
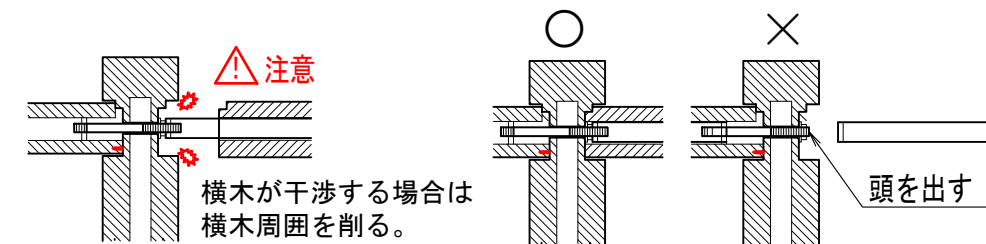
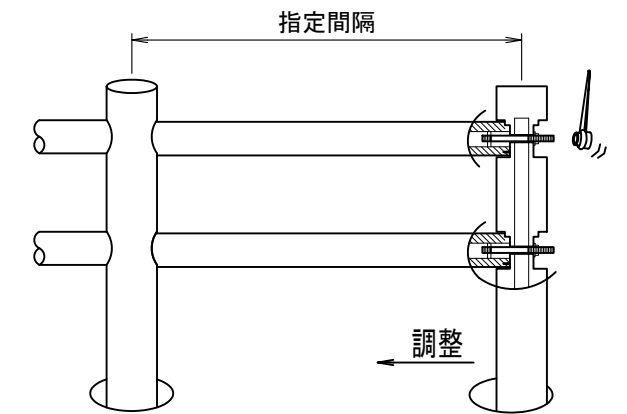
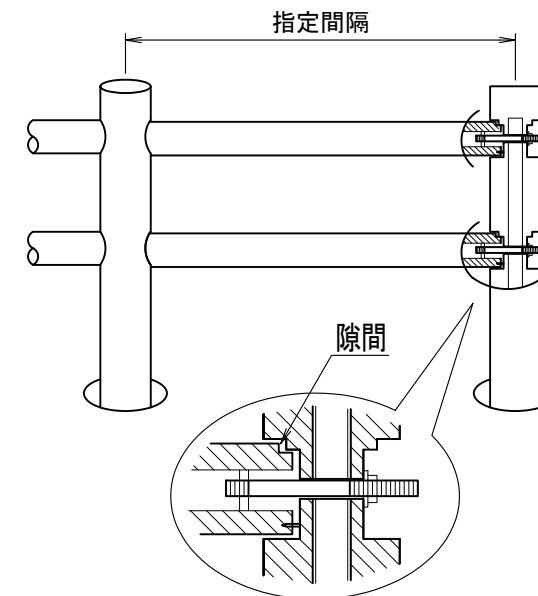
- ② 支柱間隔の調整

＜横木が短い場合＞

支柱間隔を指定間隔で施工すると横木と支柱の間に隙間ができますが、気温が上昇すれば隙間はなくなります。

＜横木が長い場合＞

1スパン毎にナットを締め付けて指定の間隔に締め付けすることにより5mm程度まで圧縮ができます。それ以上の場合は横木を切って下さい。



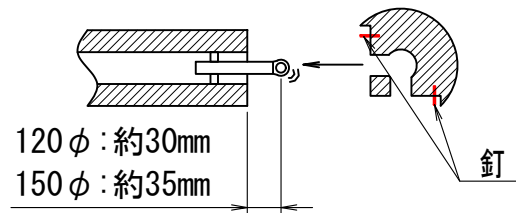


# センタービーム柵(端末タイプ)施工の手順-3/3

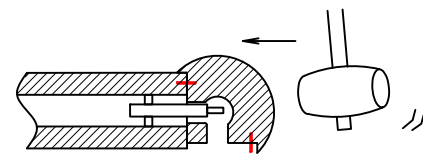
## ■コーナー部の施工方法

<90°~109° の場合>

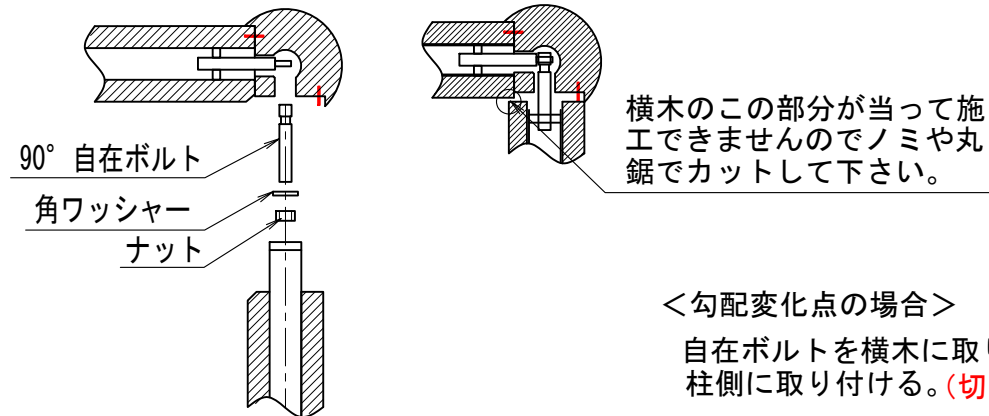
①90° 自在ボルトのナット側を手前に取り付け、柱をスライドさせる。



②カケヤでたたき込む。

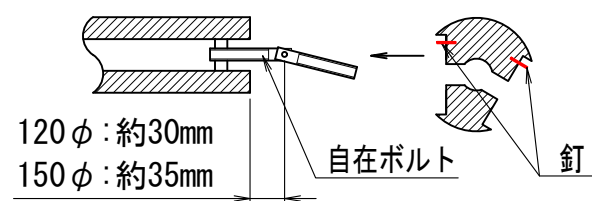


③角ワッシャー・ナットを締め付け横木を取りつける。

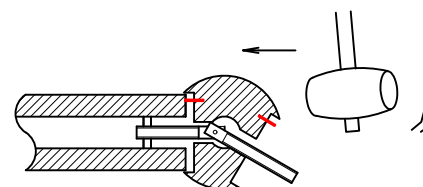


<110° 以上の場合>

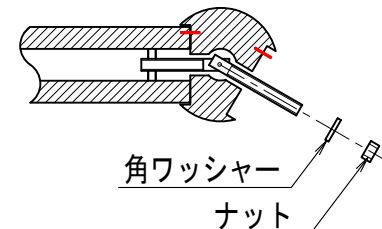
①自在ボルトを横木に取り付け、柱をスライドさせる。



②カケヤで支柱をたたき込む。

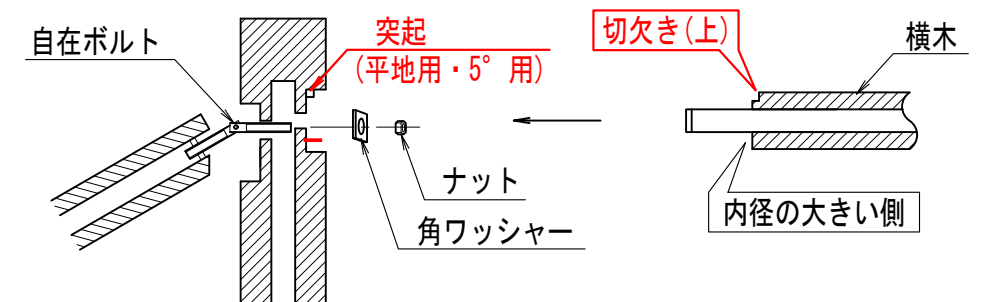


③角ワッシャー・ナットを締め付ける。



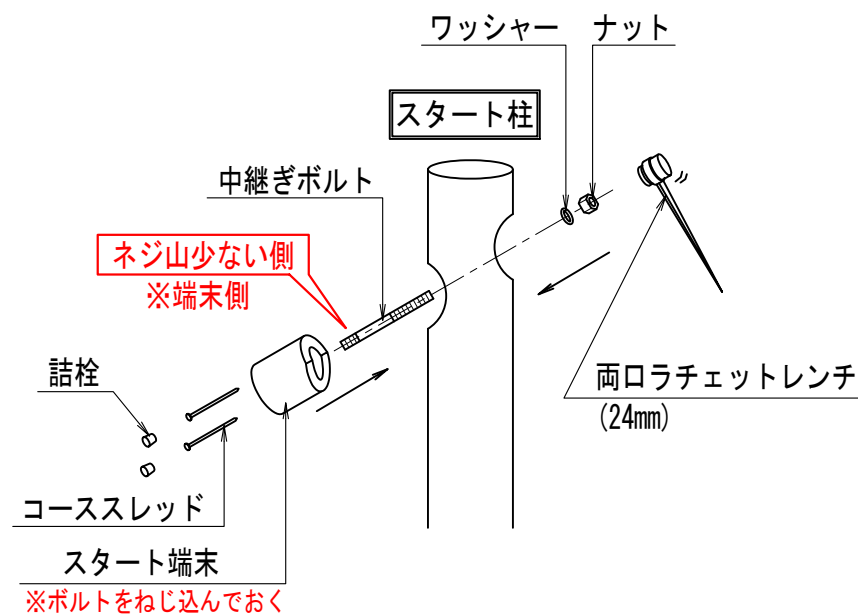
<勾配変化点の場合>

自在ボルトを横木に取り付け、次の横木の切欠き部を上に向けて柱側に取り付ける。(切り欠きがあるのは平地用・5°用のみ)

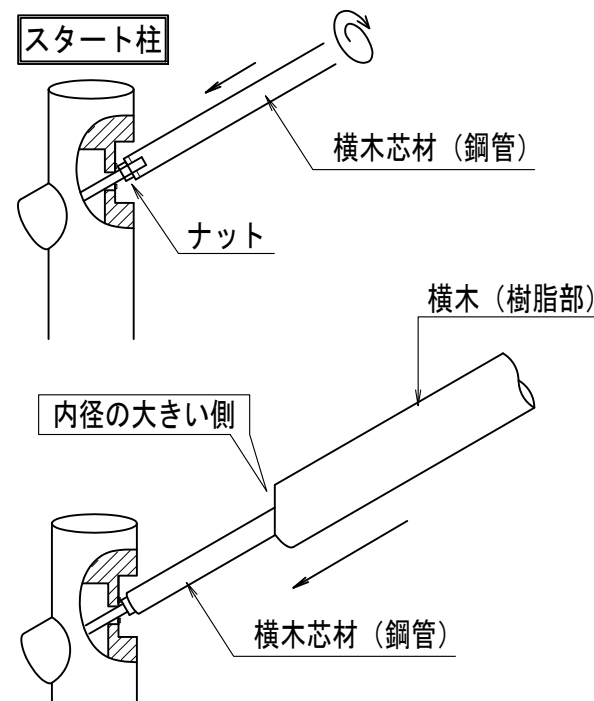


## ■傾斜部の施工方法

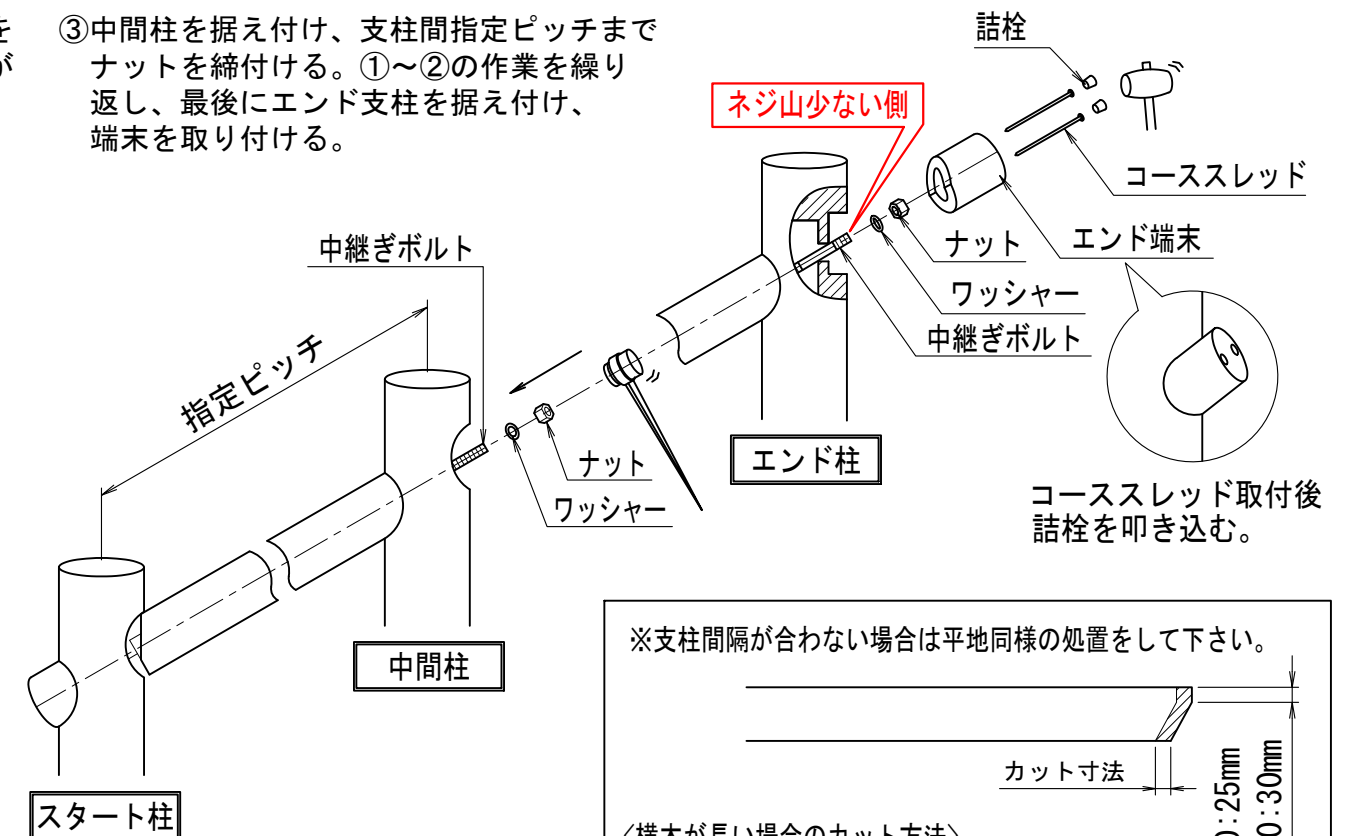
①平地部同様にスタート柱を据え付け、スタート端末に中継ぎボルトをねじ込み、柱に通し、ワッシャー・ナットを取り付け、両口ラチェットレンチで締め付ける。



②横木の内径の大きい側より樹脂から芯材(鋼管)を抜き出し、ボルトのナットと芯材のリングナットが触れるまでねじ込み、樹脂を被せる。

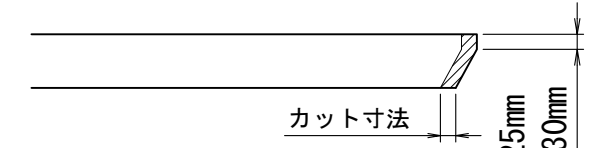


③中間柱を据え付け、支柱間指定ピッチまでナットを締め付ける。①~②の作業を繰り返し、最後にエンド支柱を据え付け、端末を取り付ける。



コーススレッド取付後詰栓を叩き込む。

※支柱間隔が合わない場合は平地同様の処置をして下さい。



<横木が長い場合のカット方法>

※カット可能寸法は20mm以下です。

※傾斜が急で支柱と横木の隙間が大きい場合は横木を持ち上げ、コーススレッドビスで固定してください。さらにコーキング材で隙間を埋めると効果的です。